

不整脈に対する専門的治療



循環器内科医局長 渡邊 伸英

当科では2016年より3Dマッピングシステムを導入し、心房細動などの頻脈性不整脈に対するカテーテル治療を行っております。また、完全皮下植え込み型除細動器、リードレスペースメーカーなど、近年新しく使用できる様になった治療デバイスの導入も積極的に行っております。

カテーテル治療については、県内の様々なご施設から患者さんをご紹介いただき症例数も増えており、昨年度は56例(うち心房細動36例)の治療を行っています。さらに、今年度から新たに金曜日にも治療を行い症例増加に対応しております。

また、毎週木曜日の午後に「不整脈・アブレーション外来」を開設し、不整脈診療の専門外来として診療を行っています。この外来では、カテーテル治療に関する紹介はもちろん、ペースメーカーや植え込み型除細動器等の不整脈治療デバイスに関する紹介、不整脈に対する薬物治療に関する紹介、など不整脈診療全般に関わる紹介を受けておりますので、不整脈に関連する症状でお困りの患者さんがおられましたら、是非ご紹介ください。紹介するかどうかを悩まれるような場合も、電話での相談も随時受けておりますので、遠慮なくご連絡いただければ幸いです。また、木曜日以外の曜日でもご相談いただきましたら対応可能です。

医局員一同、島根県の循環器診療に貢献できるよう尽力する所存でございますので、今後とも当科の診療にご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ホットライン **TEL070-5672-8109**

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報 

9月15日～10月14日

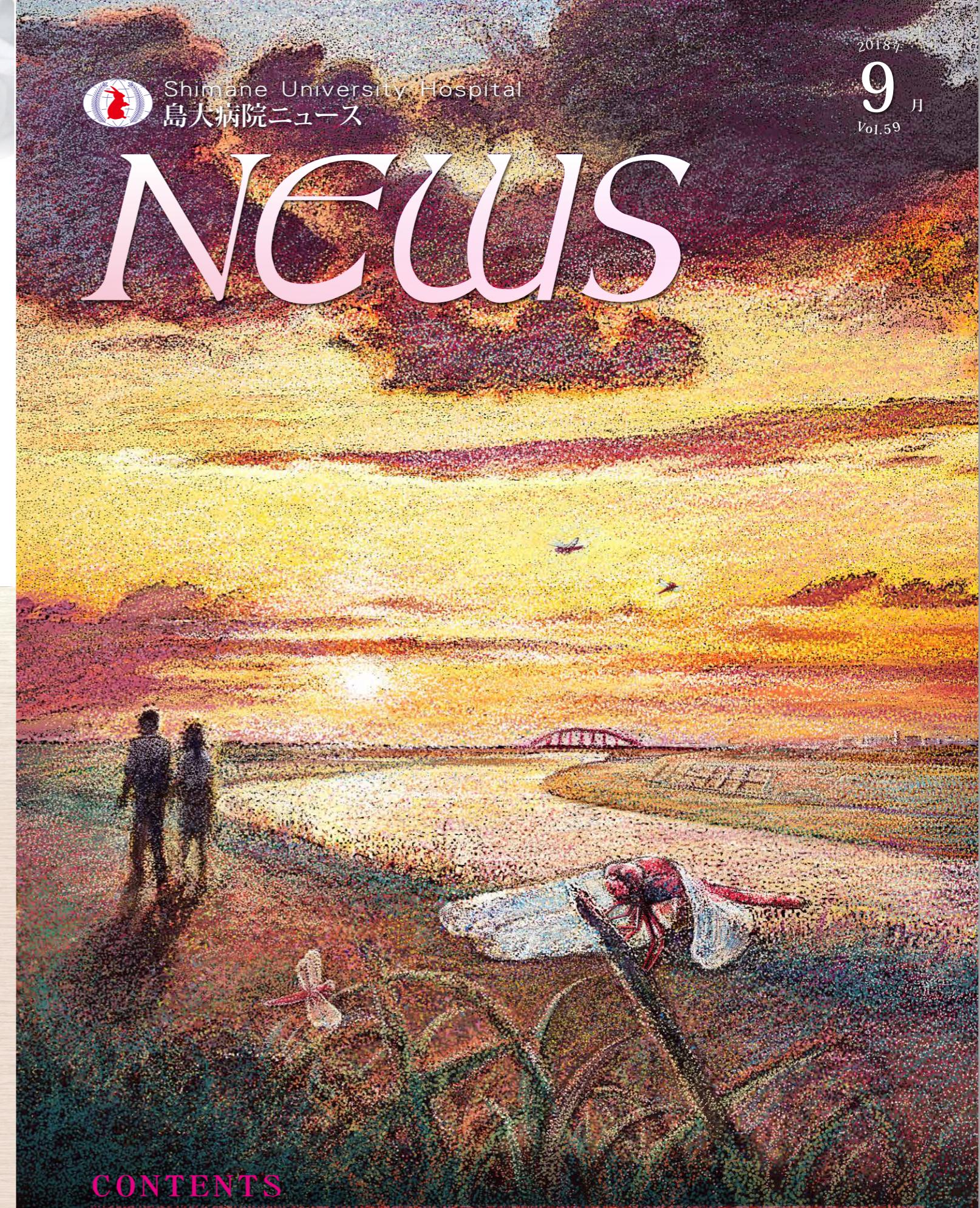
対象者： 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名		場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
9/15(土) 9:30~11:30	平成30年度 島根県がんピアサポーター相談会		外来中央診療棟3階 がん相談支援センター	一般	島根大学医学部附属病院
9/19(水) 18:30~19:30	リンパ系腫瘍セミナー 第4回 濾胞性リンパ腫とBCL 2		ゼブラ棟2階多目的室①	医療 本学	島根大学医学部附属病院 先端がん治療センター
9/20(木) 19:00~20:15	第19回島根整形外科スポーツ医学フォーラム		★ニューウェルシティ出雲	医療 本学	島根整形外科スポーツ医学フォーラム アステラス製薬株式会社
9/22(土) 9:20~17:40	9/23(日) 9:00~16:25	平成30年度 島根県がん診療連携拠点病院 がん看護研修(緩和ケア)	みらい棟4階 ギャラクシー	医療	島根大学医学部附属病院
9/24(月) 10:00~11:30	平成30年度 9月がん征圧月間イベント 最新!がん予防とがん情報		★出雲中央図書館2階	一般	(共催) ・島根大学医学部附属病院 がん相談支援センター ・島根県立中央病院 がん相談支援センター ・出雲市立出雲中央図書館 ・島根県
9/26(水) 17:30~18:30	2018年度栄養セミナー		AB病棟3階 カンファレンス室	医療 本学	島根大学医学部附属病院 栄養サポートセンター
9/27(木) 18:00~19:30	ワークライフバランスセミナー		講義棟1階 国際交流ラウンジ	医療 本学	島根大学医学部 地域医療支援学講座
9/30(日) 13:30~14:50	市民公開講座		ゼブラ棟・カンファレンス室 「だんだん」	医療 本学	(共催) 島根大学医学部内科学講座 呼吸器・臨床腫瘍学 North East Japan Study Group
10/8(月) 9:25~16:00	平成30年度 出雲NST研修会 ～胃腸から栄養を見直そう～		ゼブラ棟・カンファレンス室 「だんだん」	医療 本学	島根大学医学部附属病院 栄養治療室
10/13(土) 12:30~19:50	10/14(日) 8:30~12:20	第3回黒潮カンファレンス	★松江テルサ4階	医療 本学	島根大学医学部薬理学講座

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



NEWS



CONTENTS

- ・二つのWGを立ち上げます
 - ・前立腺癌の骨転移の新しい治療薬が注目を浴びています
 - ・不整脈に対する専門的治療
 - ・島根大学医学部における研修会・セミナー開催情報



二つのWGを立ち上げます

病院長 いがわ みきお
井川 幹夫

一つ目は病院施設機能向上WGで、病院再開発完了後に明らかとなった外来棟・中央診療棟の課題を検討して改善を図るもので。現在の問題点として、外来患者の増加に診察スペースが対応できず、特に内科、眼科でこの傾向が顕著です。一方では、外来化学療法室の利用率が低い点が問題で、このまま利用率が上がらなければ設置場所を含めて見直しが必要となります。周産期領域では、再開発後NICU、GCUの拡充移転、分娩室の増設を行っていますが、今後のニーズに応じてMFICUの新設も考慮します。放射線治療はICT等の発展によって目覚ましいイノベーションを遂げ、複数のがん腫においては、手術に匹敵する治療成績を収めるようになり、高齢化したがん患者が多い島根県では今後さらに重要性が増すものと考えられます。ただ、当院に設置している放射線の外部照射機器は導入後14年を経過して更新時期を迎えています。島根県の放射線治療専門医数は全国最低レベルで、専門医育成機関として最新の放射線治療装置を備える必要があります。放射線治療装置の更新を行うに当たり、治療施設の部分的な改修に止めるか、新規の建屋を設けるかにより、予算も大きく異なり、中央診療棟・外来棟全体の改修計画にも大きく影響するので、病院施設機能向上WGで慎重な検討を行いたいと思います。

二つ目は病院アメニティ向上WGです。患者満足度向上WGが以前から患者さんを対象として待ち時間の短縮、職員の接遇改善、環境整備など一般的なアメニティ向上のために活動していますが、この病院アメニティ向上WGは患者さんに加えて、職員および学生を対象として国立大学法人の土地貸付を受けた使用業者のサービスに病院が責任を持つ姿勢を示すものです。土地の使用業者が提供するサービスには、コンビニエンスストア、食堂、喫茶店、自販機、理美容、病棟のコインランドリーなどがありますが、各業者の責任者、病院の各職種の代表者にWGのメンバーになって貰い、病院主導で前向きに議論する中で、提供されるサービスの質向上を図ることをこのWGは目指しており、その成果が期待されます。



前立腺癌の骨転移の新しい治療薬が注目を浴びています

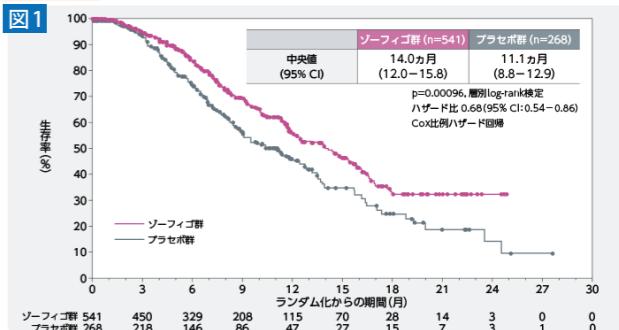
放射線治療科 講師 たまき ゆきひさ
玉置 幸久

前立腺癌は骨転移を来しやすく、強い痛みが高率に生じます。骨転移の治療薬には、従来は骨代謝修飾薬剤が中心で、疼痛の軽減や骨破壊を防止する目的で使用されていますが、がん細胞に直接障害を与えることはほとんどできませんでした。

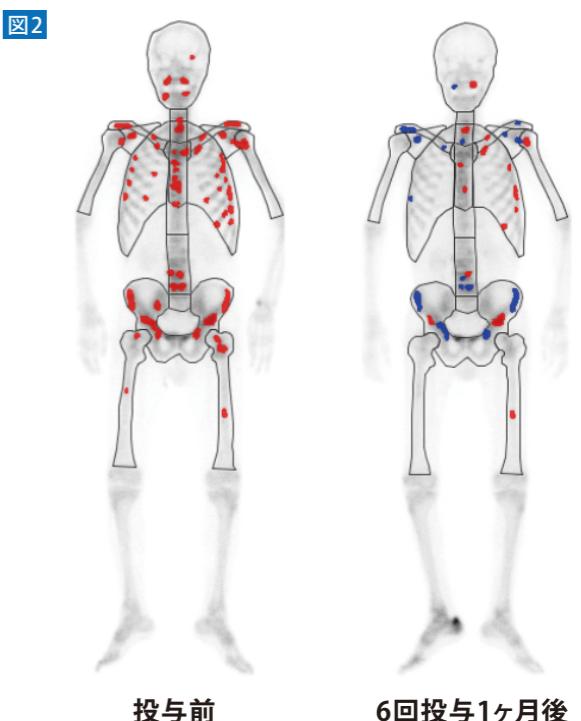
そのなかで、抗腫瘍効果を狙った全く新しい骨転移治療薬である塩化ラジウム-223(ゾーフィゴ®)が開発されました。本薬品はカルシウム類似体として骨代謝の亢進した骨転移巣に取り込まれ、高エネルギーのアルファ線により効率よく腫瘍細胞を破壊することができます。

アルファ線の組織内飛程は $100\mu\text{m}$ (およそ細胞10個分)未満であり、周辺の正常組織に対する放射線量は限定的です。また外来での治療となりますが、同居している他のご家族にも放射線被曝の心配はありません。骨転移に対する治療薬でありながら、国際共同第III相臨床試験において、プラセボ群と比較して全生存期間を有意に延長しました(図1)。もちろん従来の薬剤と同様に疼痛の緩和・防止に対しても効果があります。当院では2017年3月に第1例を治療し、現在までに10例を治療しています。身体への侵襲も低く、4週間に1回1分間かけて経静脈注射を行うだけであり、これを全6回行います。

骨髄抑制の有害事象がありますが、それ以外は概ね副作用なく治療ができます。当院での治療例を図2に示します。塩化ラジウム-223を6回投与した後の骨シンチにて骨転移が著明に改善しています。塩化ラジウム-223治療は泌尿器科と協同で行っております。去勢抵抗性前立腺癌で骨転移を来している患者さんがございましたら、是非とも放射線治療科にお問い合わせください。



去勢抵抗性前立腺癌の骨転移症例に対して塩化ラジウム-223を投与することにより、有意な生存率の改善がみられています。
参考文献) Parker C, et al: N Eng J Med 369: 213-223, 2013.



投与前 6回投与1ヶ月後

BONE NAVIで評価した骨シンチ前面像。投与前(左側)は、全身多数の骨に骨転移を疑う赤色の集積が目立つが、治療完遂後1ヶ月時点(右側)では、骨転移は著明に改善している。



島大病院ニュース 2018年9月

ご報告



西日本豪雨災害におけるDMAT活動について

災害医療・危機管理センター センター長　わたなべ　ひろあき
渡部 広明

7月上旬に発生しました西日本豪雨災害は、多くの人的・物的被害を引き起こした大災害となりました。本災害に対しまして、広島県からの隣県DMAT派遣要請を受け、当院DMAT 2隊を広島県へ派遣し災害医療活動を行いました。

当院の災害医療・危機管理センター(通称DiMCOC)では7月6日夜間から警戒本部を立ち上げて情報収集を行っておりましたが、7月7日に島根県よりDMATの派遣要請を受け、同日第1隊目のDMAT隊(医師2名、看護師2名、調整員2名)を派遣いたしました。

当初、被害が大きいとされた広島市安芸地区の安芸消防本部にDMAT参集拠点本部が設置され、当院DMAT隊も同本部指揮下での医療活動に従事いたしました。主には、本部活動、救護所スクリーニング、病院支援等を実施しました。9日には広島県東部地区の被害が大きいことが判明し、2隊目のDMAT(医師1名、看護師2名、調整員1名)を活動拠点本部となった福山市民病院へと派遣いたしました。2隊目の派遣にあたり、島根県立中央病院のDMAT隊と連携して共にバスにて移動し、第1隊目の資機材を引き継いで活動を行いました。第2隊目は主に福山市エリアの救護所スクリーニング、病院支援を中心に実施し、7月10日に無事帰院しました。DiMCOCでは、局地災害に対してもDMAT派遣を行うなど地域の災害医療が提供できる体制を維持するよう努めています。



島大病院ニュース 2018年9月

ご報告



第10回 納涼祭を開催しました

納涼祭実行委員会 代表

みしま
三島
せいじ
清司(検査部)
よこやま
よこやま
哲也(会計課)
横山

7月18日、ホテル武志山荘にて納涼祭を開催しました。教職員が一堂に会す納涼祭も、早いもので10回目を迎めました。

このたびは検査部及び会計課が担当し、節目の10回目は「仕事帰りにちょっと飲みに行く」という原点に立ち返りながら企画を催しました。恒例の抽選会では「島大病院クイズ」も催され、会場も盛り上りました。また、当院が積極的に取り組んでいる先進医療や地域医療の発展に貢献した部署の功績を称える表彰式も行われました。

今年も160名を超える職員とその家族の参加によって、広い会場も一気に埋め尽くされるほどの盛況ぶりでした。普段は真剣な表情で仕事をしている教職員も、この日ばかりは終始笑顔が溢れていました。

納涼祭も節目となる10回目を終え、来年は11回目となります。今後どのような発展をしていくか楽しみです。





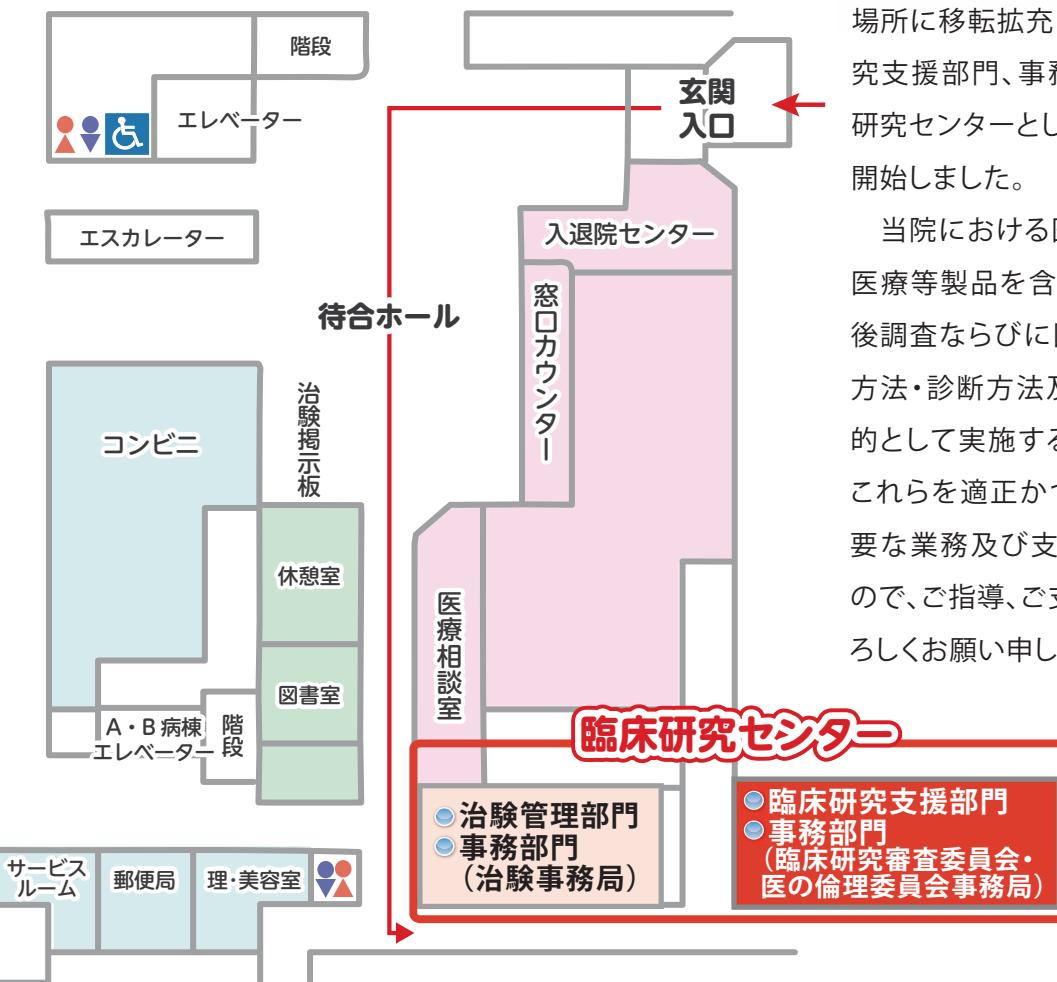
ご報告

臨床研究センターの移転拡充と活動につきまして

臨床研究センター長 大野 智

当院の臨床研究センターは、治験管理部門、臨床研究部門、事務（支援）部門の3部門として2014年4月に設置されました。

2018年4月に「臨床研究法」が施行されたことに伴い、臨床研究法を遵守した教育・研修、品質管理、適正な認定臨床研究審査委員会の運用等を実施する体制として、専任教授をセンター長とし、臨床研究部門を臨床研究支援部門、事務（支援）部門を事務部門として体制強化を図りました。臨床研究支援部門と事務部門を医学部附属病院内の治験管理部門に隣接する場所に移転拡充し、治験管理部門、臨床研究支援部門、事務部門を一体化した臨床研究センターとして2018年8月より活動を開始しました。



当院における医薬品等（医療機器、再生医療等製品を含む）の治験及び製造販売後調査ならびに医療における疾病の予防方法・診断方法及び治療方法の改善を目的として実施する臨床研究を対象として、これらを適正かつ円滑に進めるために必要な業務及び支援に取り組んで参りますので、ご指導、ご支援を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。



ご報告

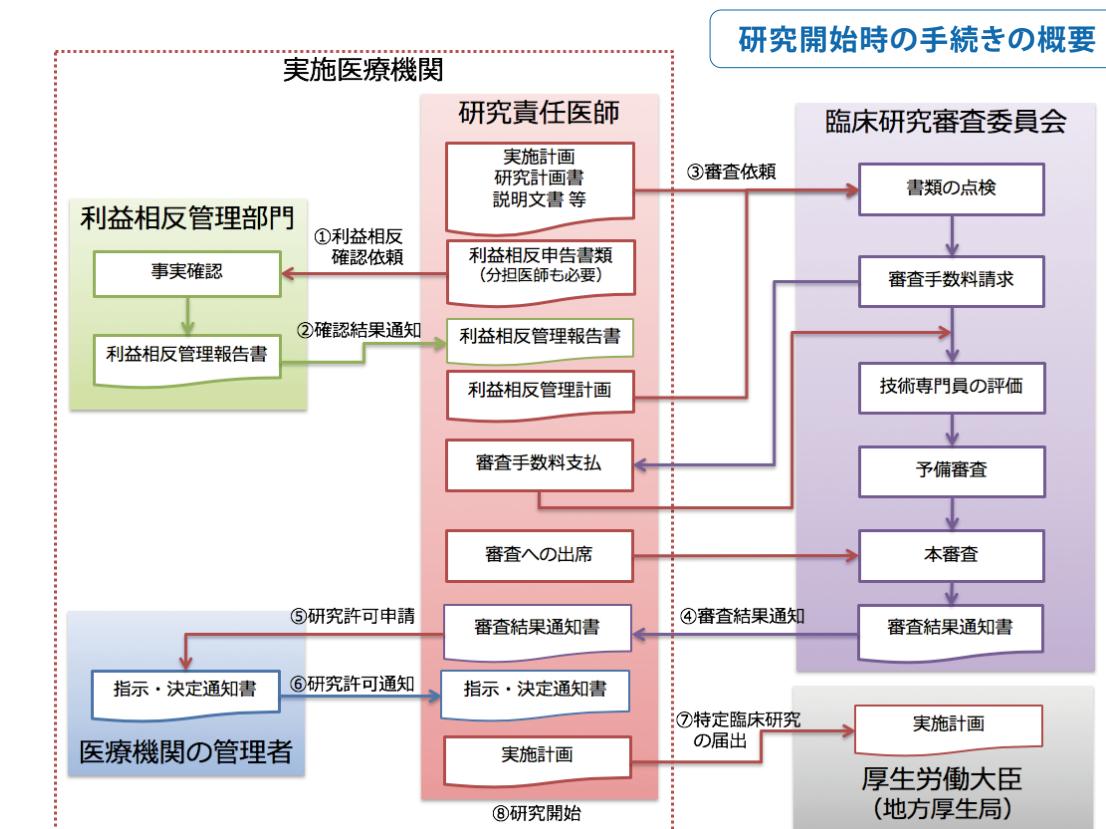
臨床研究審査委員会の審査について

臨床研究センター臨床研究支援部門 富井 裕子

本年4月に施行された臨床研究法に基づく研究の審査を行う「島根大学医学部附属病院臨床研究審査委員会」が8月6日付で厚生労働大臣の認定を受けました。当委員会は、島根大学の研究者のみならず、外部研究者からの審査依頼も受け付け、公平に審査を行います。審査のポイントは次のとおりです。

- 社会的及び学術的意義を有する臨床研究であること
- 分野の特性に応じた科学的合理性が確保されていること
- 対象者の利益・不利益の比較考量がなされていること
- インフォームド・コンセントの手続きが適切であること
- 社会的に特別な配慮を要する対象者の場合、必要かつ適切な措置が講じられること
- 個人情報が適正に管理されること
- 研究の質及び透明性が確保されること

審査は月1回、原則として毎月第4月曜日に行います。新規申請の場合、毎月1日17時までに申請されたものを翌月に審査しますが、ひと月に受付可能な件数に制限がありますので、審査を希望される方はあらかじめ当委員会事務局に受付状況をお問い合わせください。審査手続き、審査手数料、問い合わせ先等の詳細は、臨床研究センター臨床研究支援部門のサイト (<http://rinnen.shimane-u-tiken.jp/review/outline>) に掲載しています。





島大病院ニュース 2018年9月

ご報告



「高校生一日看護体験」を実施しました。

看護部長 かんだ まりこ
神田 真理子

7月31日(火)、高校生に看護の心や看護職への関心を高めてもらい、一人でも多くの生徒の方に看護職を目指してもらうことを目的に、毎年「高校生一日看護体験」を実施しています。今年度は隠岐島前高校、飯南高校など遠方からも合わせて14校、30名の高校生が参加し、学生1～3名がGCU、NICU、B病棟3階など10部署に分かれてケアなど看護師・助産師と一緒に看護の場面を体験しました。

午後からは、クリニカルスキルアップセンター職員の協力のもと「おい太郎」を装着しての起き上がりや階段昇降、車いすに乗るなど高齢者体験と「ベビーアン」を使用して、赤ちゃんの泣き声を聞いたり、抱き方やおむつ交換の方法などの看護体験を2ブースに分かれて実施しました。

体験終了後の意見交換では、高校生から「実際に看護の現場が体験でき、看護師がかっこいいと思った」、「赤ちゃんを抱かせてもらった。妊婦の方の心音も聞かせてもらい、より助産師になりたいと思った」、「大変なことはいろいろあるけど、看護師になりたい思いが強くなった」、「人のためになる、やりがいのある仕事であると実感した」等の感想が聞かれました。



「ベビーアン」での体験場面

「おい太郎」装着での体験場面

意見交換の様子



島大病院ニュース 2018年9月

ご報告



中学生地域医療現場体験を実施しました

平成30年8月1日(水)に「中学生地域医療現場体験」を実施しました。

この体験学習は島根県の主催により毎年実施し、当院では8回目の開催となります。地域医療の現場での体験を通して、医師・看護師等の職業の理解を深め、地域医療従事者を目指す中学生の育成を図ることを目的としています。

当日は県内中学校から19名の参加があり、手術部・リハビリテーション部の見学、内視鏡手術トレーニングの体験および小児センターの見学をしました。手術部では、実際の手術を見学し、リハビリテーション部では、理学療法士から説明を聞き、患者さんの動作を楽にする設備・器具の体験をしました。内視鏡手術トレーニングセンターでは、泌尿器科の医師の指導で、モニターを見ながら手術の器具を動かす手技をゲーム仕立てで体験しました。その後、小児病棟を見学しました。

実際の医療現場に中学生の皆さんは驚いた様子で戸惑いながらも、積極的に質問をする場面もありました。体験学習終了後のアンケートでは、「実際の手術はドラマと違って、医師のみなさん余裕を持って手術されていることが分かりました」、「療法士は『患者さんの人生を支える仕事』と言われたのがすごく印象に残りました」、「今回の体験で、夢に向かって頑張りたいと思いました」等の感想が寄せられました。



島大病院ニュース 2018年9月

ご報告

「高校生手術部体験学習」を開催しました

総務課企画調査係 係長 いわね まさみち 岩根 正道

8月6日(月)に本院主催の「高校生手術部体験学習」を開催しました。この学習は、将来医師等の医療従事者を目指す高校生を対象として、平成19年より毎年開催しているものです。

普段立ち入ることができない手術部を公開するなど、現場を体験することで、医療系学部への進路選択に役立てほしいとの願いで行っております。

今年は県内8校から39名と非常に多くの生徒が参加いたしました。当日は、①手術見学、②縫合手技、③ダ・ヴィンチ腹腔鏡手術シミュレーション、④臨床工学技士業務見学の4プログラムを体験しました。参加した生徒は、緊張した表情でしたが、先生に質問をする等積極的な姿勢も見受けられました。終了後は「手術室での見学で、医師が患者を助けようとしている思いがとても伝わった。」「医療に関わる職に就きたいと改め感じた。」などの感想が寄せられました。



島大病院ニュース 2018年9月

ご報告



平成30年度 第2回医療安全のための研修会の終了報告

医療安全管理部

かわかみ としえ いしとび わかこ どい のりお くりもとのりあき ひろせ まさひろ
川上 利枝、石飛 和歌子、土井 教雄、栗本 典昭、廣瀬 昌博

平成30年8月7日に開催した医療安全のための研修会において、荒井俊行弁護士(荒井東京法律事務所)から「医療における説明義務」についてご講演をいただきました。

第1部で説明義務、第2部は紛争の拡大防止について説明をいただきました。医療における説明義務には、以下の3種類があり、①自己決定権による医療決定の説明義務(患者ごとに内容が異なり十分足りたインフォームド・コンセントを行う)、②医療水準で決まる医療内容の説明義務、③結果報告の説明義務(委任契約に基づく義務、事故発生時)を詳細に解説いただきました。また、紛争の拡大防止のためには、一貫した病院側の説明、病院統一見解がまとまるまで原因に触れないのが鉄則、現在の状況に係る説明を隨時行う、共感表明などの説明をいただきました。約600名の参加者からのアンケートでは、わかりやすい講演で明日からの診療に有益であったと好評でした。





島大病院ニュース 2018年9月

ご報告

脳深部刺激療法(DBS)の手術経験 ～約2年半の経過～

ながい ひでまさ はぎわら しんや
脳神経外科 永井 秀政、萩原 伸哉

2016年4月に当院へ脳深部刺激療法「DBS(ディー・ビー・エス)」が導入されて、2018年8月の時点でパーキンソン病のDBS治療5例を経験しました。DBS治療対象は難治性の不随意運動症で、パーキンソン病が主要疾患であり、視床下核をターゲットとしています。当施設では、手術前には必ず精度管理(写真1)と術前プランニング(写真2)を行い、ナビゲーションと術中の微小電極記録(写真3,写真4)をもとにして、5mmサイズの視床下核を同定しています。そして電極針の位置がずれないように術中透視でモニターしながら、DBSリード電極を留置しています(写真6)。通常は、局所麻酔でリード電極留置術を行いますが、術中せん妄が予想される場合には全身麻酔で行っています。

我々の試算では、DBS対象者は島根県内で年間5例であり、対象の50%シェアを目指していました。実績としてほぼ目標に到達したと考えています。紹介された症例はすべて島根県内の脳神経内科医からであり、脳神経内科との連携が極めて重要であることを再認識しています。一方で、実績が少ないので他県への紹介を希望された場合もあり、力不足を痛感しています。

我々の次の目標は80%シェアであり、そして若手医師の育成です。機能的定位脳手術技術認定の取得についても道筋がついたところです。施設認定は難しいところではありますが、過去3年間のDBS手術登録数が18例以上を目指して、地道に実績を重ねていきたいと考えていますので、ご紹介をお願いいたします。

問合せ先 脳神経外科外来 TEL:0853-20-2386



写真1: 精度管理

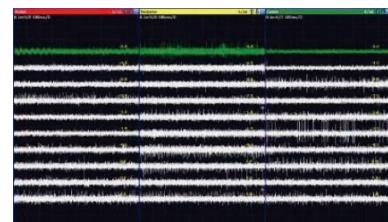


写真4: 微小電極の電位記録表

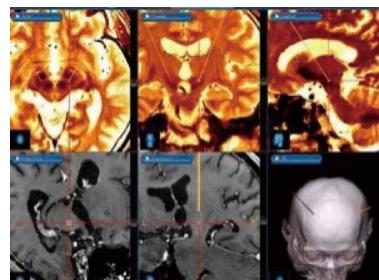


写真2: 術前プランニング



写真5: 術中透視の様子

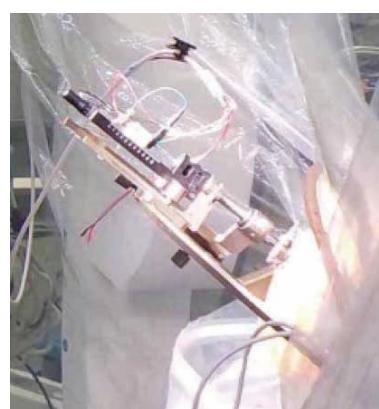


写真3: 微小電極挿入用のドライバー装置

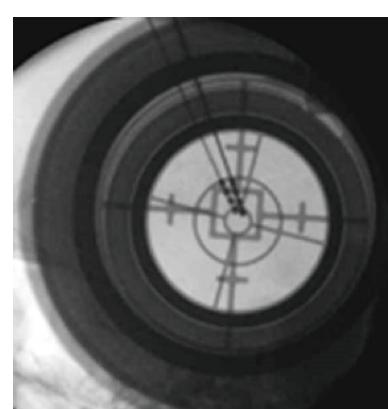


写真6: 透視でのDBSリード電極の最終確認

平成30年9月 発行

編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会

問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当

TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063

◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>

ご報告

島大病院ニュース

